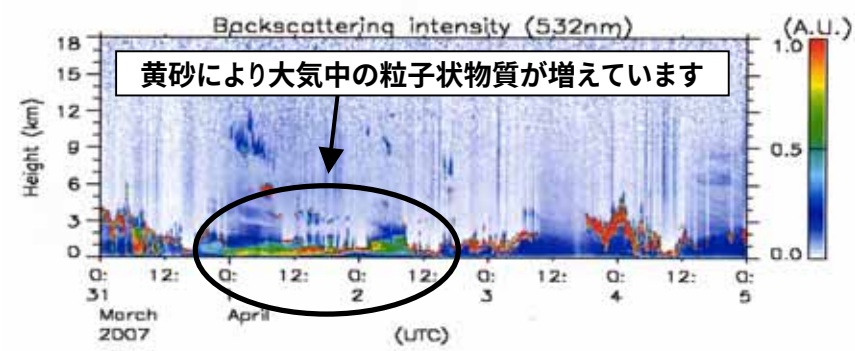
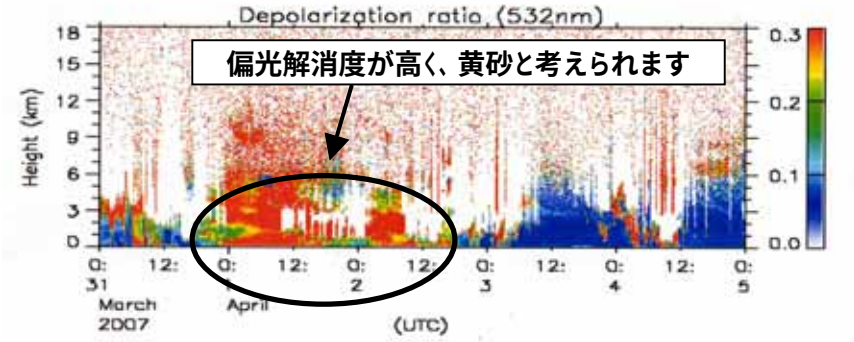
平成１９年４月の黄砂について
―ライダーと浮遊粒子状物質（SPM）の観測結果より―

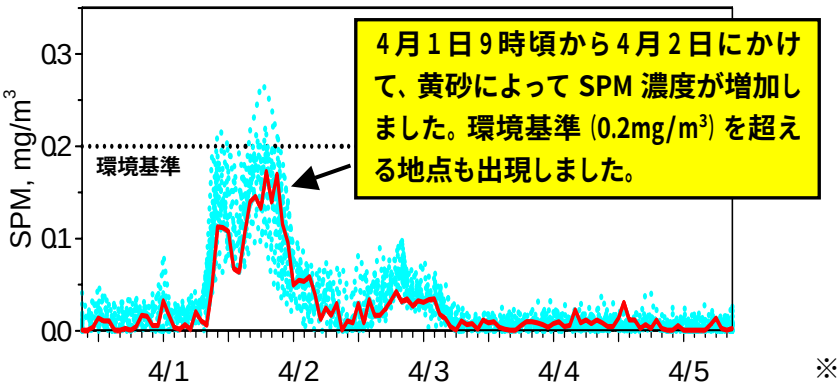
環境科学センターにおけるライダー観測の結果



散乱強度（Backscattering intensity）の見方：
　散乱の非常に強い部分（赤い部分）は雲、青から黄緑の部分が粒子状物質（エアロゾル）による散乱と考えられます。



偏光解消度（Depolarization ratio）の見方：
　散乱体の非球形性を表す指標で、黄砂のような非球形粒子では大きな値（0.1 以上）を示します。散乱体が黄砂であるか、球形のエアロゾル（主に大気汚染物質）であるか、水雲であるか、氷雲であるかの判別ができます。



県内の浮遊粒子状物質（SPM）濃度の変化

―― ： 小杉太閤山局（環境科学センター）
‥‥ ： その他県内の大気汚染常時観測局（21 地点）

浮遊粒子状物質（SPM：Suspended particulate matter）とは：
　10μm 以下の粒子を表します。SPM は大気汚染物質が多いときや黄砂が飛来したときに濃度が高くなります。

※富山地方気象台では、４月１日から２日にかけて黄砂が観測されました。

★ライダー観測の最新情報は
http://www-lidar.nies.go.jp/Toyama/index-j.html
（国立環境研究所のライダーの HP へ）
★SPM 濃度の最新情報は
http://www.eco.pref.toyama.jp/mente/mente.html
をご覧ください。